

イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

マタイの福音書 3章16、17節

イエス様は公に福音宣教の働きを開始するにあたって、バプテスマのヨハネからバプテスマ（洗礼）を授かりました。

ヨハネが人々に洗礼を授けていたのは、悔い改めのしるしとしてでした（6、11）。聖霊によって生まれた罪のないイエス様が洗礼を受けることは必要のないことです。ヨハネもそのことが分かったからこそ最初は拒みませんでした（14）。しかしイエス様は、ご自身が洗礼を授かることが神の前に正しいと告げて（15）それをおこないました。

イエス様が洗礼を受けた理由の一つは、イエス様があらゆる点において人間と等しくなるためでした。それはイエス様の謙遜で、神であり王である御方が罪人を救うために罪人の姿をとられたのです。

イエス様が洗礼を受けたとき、聖霊が降り、父なる神様の語りかけがありました。

「わたしはこれを喜ぶ」とはイザヤの預言（イザヤ42章1節）に示されているもので、それは苦難のしもべの姿です。

またイエス様はその御生涯において聖霊

の導きのもとに身を置かれました。聖霊は仕えることを教えてくださいます（エペソ5章18〜21節）。イエス様の洗礼は、イエス様がしもべとして仕える王であったことを示しています。

私たちが洗礼を受けるとき、牧師が頭を手を置きます。これは按手で信徒職への召命という理解があります。洗礼を受けるとは、キリストのからだである教会を建て上げる働きに召されたことを意味します。

神の御心は、イエス様がしもべとして仕えたように、私たちも神に仕え、教会に仕え、互いに仕え合うことです。仕える力を与えてくださるのは聖霊です。聖霊の助けを得て、仕えることを教えていただき、そのことによって神の栄光を現す私たちがありたいと願います。（泰）

【コロナ禍に思う】
「あなたのわざを主にゆだねよ。」

そうすれば、あなたの計画は堅く立つ。」

箴言 16 章 3 節

「人は心に自分の道を思い巡らす。」

しかし、主が人の歩みを確かにされる。」

箴言 16 章 9 節

コロナ禍はどれほど私たちの生活を変えたでしょうか。学生は大切な経験となる行事を取りやめになり、社会人は企業の業績悪化に伴う減収や職を失うなどの影響を受けています。昨年2020年を迎えたときに、このような日々が訪れるとは思ってもありませんでした。

コロナ禍に限らず私たちは時に思いがけない出来事に遭遇します。災害、事故、事件、病气、環境の変化やトラブルなどなど。今日と変わらない明日が来ると漠然と思いますが、この世は私たちを翻弄します。

・主任牧師就任式
23日に石田理事長を迎えて荻野牧師の主任牧師就任式が執り行われました。カメラの向こうで皆さまが祈り心で見守ってくださいましたことを覚えて感謝です。今後の牧会の働きのために、また、荻野牧師の霊肉の守りのために引き続きお祈りください。

最近、ディボーションで冒頭のみことばを読み、励まされました。自分が描いていた未来、私の計画が断たれたとしても、それがすべてではありません。私たちが信じる復活の主は、困難さえも恵みへの通過点としてくださる全能の御方です。思いがけない出来事に出会うときに、主はそこに何を語っておられるのかを探り求め、自分自信を主に委ねたいと思います。

ただ、そのような時は主を仰ぐにも周囲の助けが必要です。互いのために祈り、支え合う私たちでありたいと願います。